

抗がん剤治療を受けられる患者さまへ

がん薬物療法認定薬剤師 及川尚子

皆さん、病院の薬剤師はみなさんどのように関わっているかご存じでしょうか。「お薬をつかって渡してくれる仕事」というイメージの薬剤師。確かにお薬を調合したり、お渡しするのも仕事の一部ですがそれだけではありません。

今回は抗がん剤治療への関わりをご紹介します。

外来または入院で抗がん剤治療の開始が決まるとします。外来で内服治療を受けられる方は、お薬が始まるときに薬局内のお薬相談室で説明があります。院外処方箋でお薬をもらう

方でも、院内の薬局で説明を受けたい場合は、医師か看護師にお話してください。

お薬で聞きたいことや不安なことがある場合、受診のついでに薬局の窓口によっていただければその都度対応いたします。外来で注射の抗がん剤治療を受けられる方は、化学療法室とい

う場所で点滴をします。抗がん剤の調製は特に注意を要するので、薬局内の安全設備が整った場所で薬剤師が調製します。調製した薬は再度別の薬剤師や看護師、医師が確認するので安全です。

また、投与前に薬剤師がベッドサイドに伺い治療スケジュールの確認や副作用の説明、前回の治療で副作用がなかったかどうか確認いたします。入院中の患者さまも同様に薬剤師がベッドサイドへ伺い治療前に薬の説明を行います。入院期間中、副作用がないかどうか、体調管理はできているかどうか定期的に訪問し確認します。

このように抗がん剤治療を受ける際に、抗がん剤を調製したり、お薬を説明し問題がないかどうか確認することは薬剤師の仕事の一つです。薬剤師を見かけたら遠慮せずに声をかけてください。



抗がん剤治療を受けられる**外来**患者さまへ

外来通院での治療を受けられる患者さまにとって大切なのは、自宅での体調管理です。「あまり無理しないでくださいね」と言うものの、仕事や家事を抱えながらの治療であれば知らず知らずのうちに頑張ってしまうものです。まずは自分が使っている薬の副作用をよく理解して、あてはまった症状があるかどうか、ひどくなっていないかどうかを確認してください。わからない場合や不安な場合は放っておかず医療機関に相談してください。寒い季節は風邪などにかからないよういつも以上に感染予防が必要です。うがい、手洗いを徹底して行うようにしましょう。

抗がん剤治療を受けられる**入院**患者さまへ

入院といっても長かったり、短かったり人それぞれですが、いずれにせよ普段とは異なる場所ですので緊張を強いられながらの生活となります。ただし入院中は体調が悪いときにはすぐにスタッフが対応しますので安心です。具合が悪いときは遠慮せずすぐにスタッフへ報告してください。普段と違う味で食事がなかなかとれなかったり、食欲がなくて食べられない場合は栄養師が対応しますのでどんどん相談してください。また病棟には必ず担当の薬剤師がいますので、薬のことで聞きたいことがありましたら声をかけてください。入院中の遠慮はご法度です。ストレスのない入院生活を目標にしましょう。